

第1・2回委員会の振り返り

【第1回 令和元年12月23日】

- ・ 市長諮問「三田市文化ビジョンの策定について」
- ・ 三田市文化ビジョン策定計画の概要とスケジュール
- ・ アンケート調査票概要確認

テーマ「文化施策の現状と課題」についての審議概要

- 市が考える「芸術・文化」の定義をより明確にし、対象となるカテゴリーを整理することで、ビジョンの目指す方向性を確認しながら審議をすすめたい。
具体的には、スポーツ、絵画、サブカルチャー、ガーデニングなど多岐に渡るが、アンケートの結果を参考に市民ニーズを見極める。
- 学術的な分野も「芸術・文化」の定義に含む。
- ビジョンには障害者、高齢者等の社会的弱者の参画を促す、共生社会実現の視点を取り入れる。
- 金銭的支援にクラウドファンディングの活用や、SNSによる広報など新しい手法を提案する。
- 三田の有形文化財以外の歴史も文化に含めるべきであるので、文化芸術基本法第13条の「無形文化財」を広義に捉え、法の文化財を地域文化遺産と読み替えて視野に入れるものとする。
- 三田市では「まちなみガーデンショー」等の緑豊かな街並みを生かした特長的な取組みが展開されているので、文化芸術基本法第12条の「生活文化」の範疇として、ガーデニングも文化活動の一つと捉える。

【第2回 令和2年1月31日】

- ・ スケジュールの変更
- ・ 分科会の設置
- ・ 文化ビジョンの位置づけと対象とする文化の定義
- ・ アンケート文案の確認

テーマ「地域文化の継承と教育」についての審議概要

- 地域文化遺産のうち伝統芸能は、重要な文化である。ニュータウン地域の新しい市民にはあまり知られていない現状があるので、三田市域の伝統芸能を知ってもらえるよう情報発信を強化することは大切だと考える。
- 高齢者等の生涯学習のグループにおいても関心が高い分野は郷土史であるが、若い世代は就労や子育て等に費やす時間が多く、学習にかける時間が少ない傾向にある。
- ビジョンでは、地域や伝承者が継承してきた伝統芸能の技術や文化遺産について、若い世代への規範の継承・学ぶ場づくり、記録の手法等を明確にしていく。
- 今後の取組みのあり方として、子ども達に地域文化遺産の伝統芸能などの活動をライブで見せることで、気持ちを動かすことができると考える。
- 後継者不足など危機的状況に置かれている伝統芸能の現状を打開するためには、慣習や因習に囚われがちな風潮を見直すチャンスと捉え、前向きに取り組むべきである。お祭りへの女子の参加も見直しの一例として挙げられる。
- 伝統芸能の後継者不足については、三田市以外でも大きな課題とされていることから、他市町の先進事例の調査を早急におこない、成功例を三田市ならではの取り組みに生かしていくべきである。
- 地域文化の教育活動への活用は、近年の学校現場が多忙を極める状況では、学校毎の実施は難しい。就学前の保育園や学童保育や不登校児を対象とした支援学校等の方が、柔軟性が高く活動の場として可能性がある。
- 講師やゲストティーチャーとして、シルバー世代を登用するなど、地域で世代を横断した活動として取り組む方が、実現性が高い。
- 大学などは学生が外に出て活動することに積極的なので、市の働きかけが必要である。
- 市が行う情報発信の手法としては、子育て世代の若い層に情報が伝わりやすいSNSや動画配信サイトなどの積極的な活用を考えていくべきである。
- 教育現場の子どもたちだけでなく、保護者の世代を含め各年代にも広く知ってもらうよう情報発信しないと、子どもが伝統文化を担う年代に育つまでに地域文化遺産そのものが途絶えてしまうという危機感を強く訴える。